

## Ⅱ-2 稲沢市が目指すまち

本市の現状と2027年の展望を踏まえ、今後10年間のまちづくりにおいて、以下のような視点を重視します。

### 市民が、将来もずっと暮らし続けるまち

本市は、住まいの周りに緑や農地が広がる一方で、日常生活を営むための商業施設などが一通りそろい、製造業を中心とした雇用機会にも恵まれています。

また、名古屋市へのアクセス利便性が高いことから、進学先・就職先の選択肢が豊富にあり、商業・娯楽・文化・飲食などで都市的な生活を享受することができます。

そのため、「今後も稲沢市に住み続けたいと思いますか」とのアンケートに対して肯定的な意見が約8割と大半を占めるように、本市で生まれ育った人の多くは、本市での暮らしに一定以上の満足感を覚え、ずっと暮らしていきたいと考えています。

しかしながら、市内の住宅供給量が少ないため、若い世代が住宅を取得できず、市内で定住しなくてもできないという実態も生じています。その結果、若い世代の市外転出が進み、将来の人口減少傾向を加速させるという悪循環を招いています。

若い世代が本市に定着すれば、まちに活気をもたらすのはもちろん、次の時代を担う子どもたちが増え、さらに、地域の経済を支える労働力の供給が可能になります。行政サービスを支える現役世代が増えることになり、安定的な行政運営が実現できます。

就職するとき、結婚するとき、家族が増えたときなど、あらゆるライフステージにおいて、希望すれば本市にずっと住み続けることができるまちにすることが、本市において最も大切なことです。

その前提として、「稲沢市に住んでよかった」「ずっと稲沢市で暮らしていきたい」「進学や就職で稲沢市を離れるけれど、またいつか戻って来たい」と思われるように、施策や行政サービスに磨きをかけてまちの魅力を高め、長期にわたって市民と良好な関係を築いていけるようなまちを目指します。



## 名古屋圏で働く人が、暮らしの場として憧れるまち

本市の人口が今後大きく減少すると予想される中で、本プランの計画期間であり、リニア中央新幹線が開業する2027年までの10年間は、将来の本市の行方を決める極めて大切な期間といえます。

リニア開業を控え、名古屋駅周辺は高層ビルの開発が相次いでおり、オフィス人口が1万人以上増えるともいわれています。名古屋駅からの鉄道アクセス10分圏という地理的優位性を生かし、居住地として選ばれるまちづくりを行う必要があります。

本市には、都市的な生活と自然が身近な生活が程よく融合した暮らしの豊かさがあります。そのような本市のイメージを、効果的に伝えることが必要です。

そのためには、住宅供給とともに、子育て支援・教育の充実、各種インフラ整備、暮らしの安心・安全の向上など、暮らしやすいまちづくりへのアプローチが欠かせません。

本市ならではの豊かな暮らしや魅力をブランドの域にまで高め、多くの人が憧れるまちを目指します。

